

# サーサナ

第11号 仏暦2553 (西暦2010) 年6月1日

## 三宝帰依ということ

自  
ら  
僧  
に  
帰  
依  
し  
た  
て  
ま  
つ  
る

自  
ら  
法  
に  
帰  
依  
し  
た  
て  
ま  
つ  
る

自  
ら  
仏  
に  
帰  
依  
し  
た  
て  
ま  
つ  
る

三宝とは仏と法と僧のことです。この三つは仏教徒の宝であり、最終的な拠り所であります。

(1) 仏（ブツダ）とは釈尊のことです。法に目覚め法を説かれたお方です。ただし、大乘仏教では、法の象徴としての仏をさまざまに生み出していきました。阿弥陀仏も法の象徴です。

(2) 法（ダンマ）とは真実・真理のことです。この法は、釈尊に先立って存在するものです。ちょうどニュートンが「発見」した万有引力の法則は、ニュートンとは無関係に宇宙に働く法則であるのと同じです。法は釈尊によって覚られ、説かれ、言葉となり経典になりました。これが教法（サーサナ）です。

(3) 僧（サンガ）とは、もともとは「会議」とか「仲間」という意味でした。仏教では四人以上の出家比丘の集まりを「現前サンガ」といい、さらに意味が拡張されて「仏教徒の集まり」を指すようになりました。僧侶個人のことではありません。（僧侶とは、サンガの一員＝「侶」ということです）

三宝帰依とは、私なりに理解しているところでは、「釈尊の仏言に従い（帰依仏）、経典を拠り所として（帰依法）、同朋とともに（帰依僧）、穢土に死して浄土に生きよ」ということだと思います。

三宝帰依がはっきりするためには、三宝以外のものには帰依しないという姿勢が明確でなければならないでしょう。凡夫はともすると、真実でないものと真実としがちですが、逆にいえば、真実がはっきりすることによって、真実でないもの＝偽物を見破る眼ができるはずですよ。

## 法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。

### 六月 帰敬式（おかみそり）

帰敬式は、仏弟子としての名のりである法名をいただく儀式です。法名は死んでから、と思われがちですが、そうではなく、本来は生前に授かっておくべきものです。キリスト教で洗礼名がキリスト教徒の証しであるのと同様に、法名を授かることは仏門に帰依したことの大切な証しで、これを受式することにより正式な仏教徒（真宗門徒）となります。

- \*日時 6月28日（月）午前11時～正午
- \*受式費用 20,000円（うち10,000円は本山礼金）
- \*先着順にお申込を受け付けます。6月10日締切り。定員は10名です。
- \*事前説明会を受けていただきます。6月19日（土）午後1時から3時です。
- \*お斎（昼食）接待および記念品があります。
- \*法名に希望の文字があれば、御相談に応じます。

### 七月 声明講習（お勤めの練習）：入門コース

来年の「宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要」において勤められる和讃（「弥陀大悲の誓願を」次第六首）を練習します。御遠忌に参拝を予定している方はぜひ御参加ください。

- \*日時 7月14日（水）午前10時～正午
- \*受講料 無料
- \*持ち物 念珠  
（勤行本は当方で用意します）

\*参加希望者は7月8日までにお申し込み下さい。



### 八月 盂蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

- \*日時 8月13日（金）午前8時～9時
- \*内容 勤行（和訳阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話（住職）
- \*持ち物 勤行本（『抄訳佛説阿弥陀経』『正信偈同朋奉讃』）、念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施、
- \*記念施本 『南無阿弥陀仏の葬儀』（二階堂行邦著、東本願寺）

盂蘭盆会について個別（家族単位）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。お経は「阿弥陀経」（音読）です。

#### 1. 本堂でのお勤め

8月14日午前。15分刻みで御希望の時間を指定していただきます。先着順です。十六家族様まで。

#### 2. 家庭の御内仏前でのお勤め

(1)13日午後、(2)13日夜、(3)14日午後、(4)14日夜、(5)15日午後、のいずれかの時間枠をご指定下さい。午後とは1時から4時まで、夜とは5時から8時までをいいます。これ以外の日時は応相談。

## 法務休暇等のお知らせ

6月24～25日、7月26～28日、8月17～23日

以上の期日を法務休暇とさせていただきます。

いずれの場合も休暇日に先立ち、6月22日午前11時、7月25日午後5時、8月16日午前11時に、本堂にて一座読経いたしますので、上記期間が命日に当たられるご家族の方は、なるべく本堂にてお参り下さい。

## ユニセフ募金の報告

本堂の費銭箱に入れられた皆さまからの浄財は、財団法人・日本ユニセフ協会に寄付されます。3月15日に、5,652円を同会に振込みました。累計では、80,949円の寄付となりました。ありがとうございました。



## 永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

3月10日 慈光院釋健浄（願主・近末様[南区堤起町]、10万円）

4月10日 功德院釋鈴信、正徳院釋政信、信心院釋尼妙浄

（願主・酒井様[瑞穂区瑞穂通]、30万円）

俗に「永代経をあげる」と言いますが、意味するところは「寺へ永代経懇志を包む」ということです。これはまったく任意の寄付（御布施）です。

## 仏旗について

当寺ではこのたび、仏旗掲揚ポールを設置しました。法要行事の際には仏旗を掲揚しています。

もともと、多くの仏教国では仏旗を掲げる習慣がありましたが、そのデザインはまちまちでした。日本では、緑黄赤白紫の五色の旗が用いられることが多いようです。しかし、世界仏教徒連盟（WFB）が結成され、スリランカでの第一回世界仏教徒会議が開かれた1950年には、正式に「国際仏旗」として青黄赤白樺で塗り分けられたデザインが採択されました。

これについては、次のような意味があります。すなわち、仏陀がそのすぐれた力をはたらかせる時、仏陀の体から青、黄、赤、白、樺及び輝きの六色の光を放つと『小部経典』というお経の中の「無礙解道」の項に説かれています。このため国際仏旗は「六色仏旗」とも呼ばれています。

本堂内にも掲げていますので、一度注意してご覧になって下さい。

### ☆仏事のマナー☆

## 念仏をとる

浄土真宗においては、修行はありません。なぜならば、どんな修行も何ひとつ満足にできない、そのような者のための教えが浄土真宗だからです。

しかし、そうはいつても、「じゃあ何もしなくていいんだ」と開き直ってはだめです。最低限二つのことが必要だと思えます。第一は聞法、第二は念仏です。聞法については別の機会に述べます。念仏、これは「南無阿弥陀仏」と声に出すことです。これを称名念仏といいますが、念仏には観想念仏というものもありますが、こちらは普通の人には無理です。しかし称名念仏はだれにでも、どこでも、いつでも実行可能です。

お仏壇の前に座った時、まずは念仏をとるえましよう。「仏事のマナー」あるいは浄土真宗の作法は、難しいことをいえばきりはありませんが、念仏をとることは、基本中の基本です。これを実行せずして、焼香順位やら服装やらを気にするのは本末転倒であります。

**真宗大谷派 教心寺**（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>